

<別紙1>

## 第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社フィールズ

②施設・事業所情報

|                              |                             |       |
|------------------------------|-----------------------------|-------|
| 名称：つばさ                       | 種別：地域活動支援センター               |       |
| 代表者氏名：加藤昭和                   | 定員（利用人数）：<br>20名（利用人数：18名）  |       |
| 所在地：〒213-0026 川崎市高津区久末1694   |                             |       |
| TEL：044-755-6522             | ホームページ：http://tomoni.or.jp/ |       |
| 【施設・事業所の概要】                  |                             |       |
| 開設年月日：2010年9月1日              |                             |       |
| 経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 県央福祉会 |                             |       |
| 職員数                          | 常勤職員：2名<br>非常勤職員：2名         |       |
| 専門職員                         | （専門職の名称） 名                  |       |
|                              | 管理者 1名<br>支援員 2名            |       |
|                              | サービス管理責任者 1名                |       |
| 施設・設備の概要                     | （居室数）                       | （設備等） |
|                              | 事務室 1                       |       |
|                              | 作業室 2                       |       |
|                              | 相談室 1                       |       |
|                              | 更衣室 1                       |       |
|                              | 食堂 2                        |       |
|                              | トイレ 2                       |       |

③理念・基本方針

【法人理念】

- ①障がい児・者、高齢者のノーマライゼーションの実現から「ソーシャル・インクルージョン」（共生社会）を目指します。
- ②社会・福祉・介護ニーズに応えるべく先駆的で開拓的な事業を展開します。

法人の理念および基本方針を遵守し、障がいの種別を問わず障がい者の能力に応じた働く場を提供し、障がい者の自立と社会参加の促進を図ります。地域の社会福祉施設、民間企業、特別支援学校、ハローワークなどの労働分野などの社会資源とのネットワークを形成し、障がい者と地域社会の交流促進の活動を行います。

④施設・事業所の特徴的な取組

多種多様な作業種・作業工程を用意し、利用者を多方面からアセスメントできる体制を作ることで、個々の能力や希望に合わせた作業形態への気づきをお手伝いします。さらに定期的に利用者ミーティングを開催し、利用者の意見を直接反映した企画や余暇活動を取り入れ、達成感と仲間意識を感じられる参加型の施設をめざします。当事業所では、クロネコメール便、墓地清掃、仏器磨き、ノズル清掃、コア組み込み、チラシ折り、Nゲージ部品組み立て、消しゴムブロック仕分け、パッケージシール貼り 等の作業を行っています。外に出て体を動かし、体力作りになる作業もあれば、ピンセットで小さい部品をつまんで目を凝らしながら行う精密さを必要とする作

業もあります。これらを各利用者さんが交代に行っていくことで、様々な体験をしていただけるようになっていきます。

今年度は利用者ミーティングの中で余暇活動に関するアンケートを取り、6月にはラーメン博物館に行きました。利用者さん達自身の意見を反映した余暇活動は評判も良く、今後も水族館やスポーツレクを企画しています。

⑤第三者評価の受審状況

|               |                                       |
|---------------|---------------------------------------|
| 評価実施期間        | 令和4年5月16日（契約日）～<br>令和5年1月10日（評価結果確定日） |
| 受審回数（前回の受審時期） | 2 回（2019年度）                           |

⑥総評

◇特長や今後期待される点

1)利用者個々の思いに寄り添った日々の活動計画を策定しています  
職員は日常の関わりの中で利用者の思いや要望を把握するように努めています。そのためどのようにしたら利用者一人ひとりが自分の思いを他者に伝えられるようになるのか、工夫をしています。自分の思いを表出し、自分で決められるような意思決定支援に努めています。把握した事柄については速やかに支援者間で情報共有しています。それを基に、月1回の会議では、職員全体で考えた支援方針を決め、利用者主体の支援計画になるように話し合っています。

2)利用者個々の仕事へのモチベーションの維持に努めています  
利用者の仕事に向き合う姿勢は様々です。そのために、作業室をどのように設置するか工夫を重ねています。作業室自体の環境設定を考え安全に集中して作業がしやすいように状況に応じて設定を変更しています。さらに室内の作業台は無駄なものは置かず動線を考え作業に集中できるように工夫をしています。利用者一人ひとりに寄り添い、利用者が十分に力を発揮できるように支援しています。職員は、その日の利用者の心身の状況や要望、その他の事情を配慮して、利用者が仕事をしやすい支援に取り組んでいます。

3)受注する仕事を増やし工賃アップを目指しています  
受注作業への取組は基本的にはローテーションで職員と利用者と一緒に取り組んでいることが強みになっています。利用者のストレングスを生かした担当を決め、それぞれが自信をもって作業に取り組んでいます。利用者同士が関わり合いを持ち、自然に助け合いながら作業に取り組んでいます。工賃の支払時には本人の工賃への満足度などを把握し、少しでも受けとる額が増えることを目指して取り組んでいます。

4)大災害時等に備える対策の検討が望まれます  
リスクへのマニュアルや手順書を整備し、活動中の交通事故や怪我や感染症の予防対策を行い、防災訓練を実施するなど個々への危機管理対策を取っています。しかしながら、自然災害や火災、感染症のまん延など、業務停止のような緊急事態に遭遇した場合の対策の整備は十分とは言えない状況です。今後は災害発生に対し、予防も含めた対策を策定し、緊急事態に備えて周知や訓練を図っていくことが期待されます。

5)事業所の活動に即したマニュアル作成への取組が期待されます  
現在、各種のマニュアルは法人として策定されたマニュアルをそのまま使用する形になっています。事業所として必要な内容が網羅されていますが、事業所独自の面が反映できていない状況です。日々活動している中で利用者からも要望がある、わかりや

すい作業手順等などもその一つです。マニュアルは現場での活用の視点で記述されることが大切です。事業所内のマニュアル作成の取組を通し、職員のレベルアップにも結びつけることができます。事業所独自のマニュアルの整備が期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者から事業所として整備が必要な事柄を指摘していただくことで、職員一人一人が今後の業務を見直すきっかけにできたと思うので良かったです。

特に防災計画や災害備蓄品の管理については書式として明確にしておくことで、利用者やそのご家族にとっても安心して利用できる事業所になると思うので、早々に作成したいと思います。

他にも職員が少ないため口頭で情報共有や利用者対応業務のすり合わせを行うことが常ですが、今後は書面にして業務の標準化を図っていきたいと思います。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり